

「子どもをとりまく諸問題と不登校」教育セミナー

講師 世田谷区総合教育相談室 専門調査委員
緑川尚夫先生

3月6日(土)午後、菅生中にて県教育委員会主催のセミナーがありました。その一端を紹介します。

まず戦後の社会的状況を背景にした、子どもたちの動向の説明がありました。

昭和26年に長欠率が3.7% (貧困、無関心による) あったのが、42年には1%になり、この頃から教育に対する関心が高まってきたそうです。36年登校拒否、46年万引き窃盗の遊び型 (初発型) 非行、暴走族、50年前後から不登校、家庭内暴力が目立ちはじめ、その後、校内暴力、シンナー、薬の乱用、摂食障害、いじめ問題が頻発。平成に入り、テレクラ、援助交際、学級崩壊、中高生のナイフ事件へと続いてきました。

次に、いじめと不登校についての話がありました。先生によると、いじめる子も、いじめられる子も情緒的に未成熟だという共通点があるそうです。違う点は、いじめる子は、外交的性格、劣等感、欲求不満が強く、いじめて楽しんでいる未熟さをもつ。また、いじめられる子は内向的性格、まじめで幼く、経験不足であり、欲求不満が少ない。そこで、情緒的未成熟な子をどのように育てていくかが問題で、基本は親子関係にあるが、同時に毎日の対人関係のもち方も変えていかなくてはならないということです。「有無を言わせない関係」ではなく、「頭ごなしの否定をする関係」でもなく、子どもと向き合う関係が必要であるとのことでした。

不登校の原因は、自己中心 (母親の甘やかし過ぎによる)、自己決定力・自己表現力がない (過保護・過干渉による)、親との分離不安 (母親が子どもを無意識に離そうとしないことによる) だそうです。

これらの問題は、現代社会の対人関係の希薄さ、ゆがみが根本原因にあり、解決には家庭、学校、地域社会での対人関係のもち方が重要だということでした。

お知らせコーナー

■菅生こども文化センター ☎976-0444

- 3/13(土) くんせい作り 午前11:00～午後4:30
要申込 先着30人
- 20(土) せっけん作り 午後2:00～4:30
要申込 先着20人 20円
- 29(月)～31(水) 午後2:00～4:30 こども映画館
ポップコーン (30円) あり
- 5/9(日) 第24回若葉祭予定

■蔵敷こども文化センター ☎977-2577

- 3/10(水) こども映画会 午後3:00～4:00
- 3/11・25(木) おしゃべりハンド
午後3:00～4:00 会費50円/月
- 3/13(土) 大ゲーム大会 午後2:00～4:00
- 3/17(水) エコちゃんクラブ 午後2:00～3:30
- 3/27(土) 料理教室 カレー 午前10:30～午後2:00
要申込 先着25人 100円
- 3/31(水) 春休みミニ四駆大会
要申込 先着100人
- 4/24 新入学進級パーティー予定
- 4/28(水) チャンピオンシップ予定
TVゲーム大会
- 6/12(土) ぞうさんまつり

■菅生中学校

- 地域学習 (1年生) 3/11(木)～12(金)
地域を学ぶ (関連記事とらいあんぐる (18))

■菅生小学校

- 運動会 5/16(日)→予備日18(火)

■稗原小学校

- 交通安全教室1～3年 4/22(木)

■宮前市民館菅生分館 ☎977-4781

- ◆春休み『こどもクッキー&ちらしずし作り』
3/26(金) 午後1:00～4:30
- ◆こども劇場『パネルシアターコンサート』
3/28(日)午後1:00～3/10(水)から整理券配布
成人学校
- (1) マウンテンバイク入門
5/16, 23, 6/13, 20 日曜全4回
午前10:00～12:00または午前10:00～
午後3:00 20名
- (2) ハーブのある暮らし
5/18～6/22 毎火曜全5回
午前10:00～12:00 30名
- ◆菅生分館まつり 5/22(土)・23(日)

こども文化センターASCL (アスクル)

4月1日より全市的に放課後、児童が学校から直接こども文化センターへ行けることになりました。問い合わせは各こども文化センターへ。

とらいあんぐる菅生

1999年3月8日(月)
発行 菅生中学校区
地域教育会議
編集 広報委員会
事務局 菅生小学校
TEL 977-0914

菅生中学校区地域教育会議シンポジウム

商品券は誰のもの？

主催 生涯学習委員会

商品券 (地域振興券) が3月13日から交付されます。15歳以下の児童がいる家庭に1人につき2万円。生涯学習委員会は、1月30日の午後、JAセレサ菅生支店でシンポジウムを開き、商品券は子どもたちにどのような影響があるのかなどについて話し合いました。シンポは2部構成で、前半は商品券についての情報を市経済局の梅沢義弘さんが講義。その後、参加者 (約40名) による意見交換に入りました。おもな意見を拾うと・・・



対象外の人たちは

- 大学生と予備校生の2人の子どもがいるので、ものすごい出費。費用がかからない15歳以下の子どもを持つ家庭が対象ということに納得がいかない。(女性)
- 子どもがいなくて、妻が働いてる家庭は税金も莫大だし、このような恩恵も少ない。そういう人たちがいることも考えて使ってほしい。(男性)
- 商品券で何か物を買うなら、地域のいいお店を見つけて使ってほしい。小さなお店がどんどん消えていく。地域のお店を大切にしたい。(女性)
- 1人で使うという考え方から、みんなで使う、一緒に楽しむ、という使い方もあるのでは。(男性)

天から降ってきた商品券。「ワーイ、何を買おうかな」と単純に喜んでいられないほどさまざまな問題を含んでいる。会を主催した生涯学習委員会の工藤委員長は「このような不況の時代にあって、無駄をなくして節約設計をしていこうというときに、自分の努力で得たものではない「あぶく銭」を、子どもにどう伝えるのか・・・商品券は誰のものでもない」と話した。

地域振興券は、15歳以下の児童がいる世帯の世帯主に、13日までに郵送される。また、一定の条件を満たす65歳以上の人などは、審査の結果、交付が決定した人には、民生・児童委員を通じて届けられる。1人につき2万円。3月13日から9月12日まで、『地域振興券取扱業者』のステッカーが貼ってあるお店などで使える。問合せは経済局地域振興券事務所 (TEL244-3183) へ

※生涯学習委員会では、このシンポジウムをまとめた小冊子を発行予定です。

商品券はだれのモノ？

- 商品券は税金から支払われる。なぜ、15歳以下の子どもが対象になるのか？商品券は子どものものではないと思う。(母親)
- 将来、税金を払うのは子どもたちだから15歳以下が対象なのかもしれない。(一般女性)
- 私の娘は「将来、返すならそんなもの要らない」と言っている。(父親)
- 住専や銀行に税金を吸い取られてきた。やっとなんか私たちが使える。(父親)

子どもの反応は？ 使い道は？

- 子どもは自分が使いたいと主張している。小遣いを減らすつもり。(母親)
- 子どもは喜んでる。参考書などを買うお金にあてたい。(母親)
- 商品券を、まだ手にしていないので、実感がない。(母親)
- 子どもが私立に通うのでその交通費に。(母親)
- 普段、買ってやれない物を子どもに買ってあげる。余ったお金で食事でもしたい。(母親)
- 家族で小旅行をしたい。(父親)

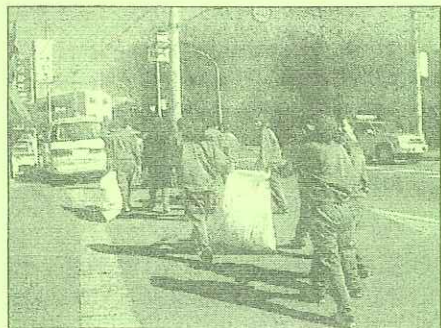
家庭での話し合いをどうする？

- 親子の取り合いや、きょうだい喧嘩にならないの心配。税金から出ていることをきちんと説明できる親子関係があるのかどうか。(一般女性)
- 税の仕組みについて、家庭で話し合うきっかけにしてはどうか。(父親)
- 不況のこの時代、大人が必死で働いて収入を得ているときに、子どもに好きな物を買うことはできない。お金についてどう考えるのか、家庭で話したい。(父親)
- 商品券をめぐる、子ども同士の恐喝や脅し事件などが起きるかもしれない。親が意識をきちんと持つことが大切ではないか。(父親)
- 堂々と、子どもと向き合って話し合っていくことが必要だ。(父親)

地域クリーンイベント 飛ぶ鳥 あとを 大掃除

「菅生の伝統に！」

2月23日(火)菅生中3年生全4クラスが、菅生3丁目のバス通り周辺、神社など、グループに分かれてゴミ拾いに繰り出した。



当日は2月とはいえ、体を動かすと汗ばむほどの陽気に恵まれた。足下に目をやるとジュースなどの空き缶やペットボトル、タバコの吸いガラなどがごろごろしている。特に、タバコの吸いガラの多さが目につく。「ポイ捨て」の大人がたくさんいるということだ。2時間あまりで、各グループの黒いゴミ袋はいっぱいになった。

＜中学生に インタビュー＞

街のようすは？

- 汚いと思った
- 道にゴミがたくさん落ちているので、おどろいた
- ゴミを捨てないでほしい
- 他の人たちは大きいゴミだけ拾ってる。小さいゴミまで全部拾おうと思ったら「ゴミだけ収集掃除機」でもなくちゃ拾い切れない

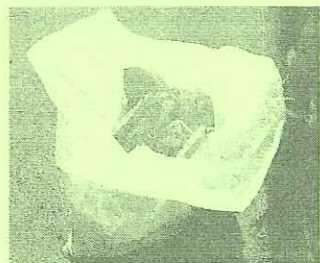
この地域クリーンイベントは、すでに授業のカリキュラムを終え3年生が卒業を前に、何か地域にお役にたてばということので、毎年行っている。

ある中学生はこんな夢を語ってくれた。「中学生っていうと悪いイメージがあるけれど、そういう人たちはばかりではない。3年生の最後に、地域のためにやれて嬉しい。3年生がやれば、1、2年生も見習ってくれる。小学生と一緒にやれたらいい。それが菅生の伝統になるといいなあ」と。

中学生と同行したが、「やってあげるとか、いいことをやってるというのではなく、自主的にやることだと思う」と言う中学生もいて、今どきの中学生もなかなかのもの。彼らの姿勢に学ぶことが多いひとときだった。

そうじ大変だった？

- きれいになるからいい
- いい運動になった
- 楽しみながらやってるよ
- 知らないおばさんに「ごころさま」って言われて嬉しかった！



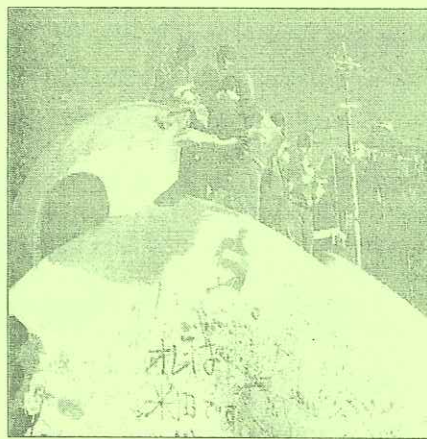
袋の中はこんなにゴミが…

「消しては書かれ、消しては書かれ……」

地域の大掃除と平行して稗原団地のタコ公園では、タコ・スベリ台のラクガキ消しが行われました。こちらは1クラス5名、全20名の男子生徒がペンキだらけになって奮闘していました。

皆さん、ご存じですか？ タコ公園のタコ！ 皆さんの記憶にあるタコは、いつでもラクガキだらけのかわいそうなタコじゃないでしょうか。

昭和60年前後にも中学の当時の厚生委員会で、ペンキ塗りをしたことがあります。今のピンクタコの誕生です。その後も3年ごとに卒業記念の一環で、ラクガキ消しをしてきましたが、今回は真っ赤なタコにすることになりました。しかし、ラクガキがひどくて、ペンキの下から浮き上がる状態。ペンキも足りなくなっていました。



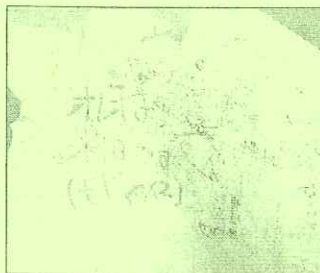
宮前平の駅の公衆トイレに、最近行きましたか？ カガミが新しくなっていたでしょう。「子どもたちのおこづかいで設置したカガミです宮前区子ども会連合会」というコメント付で。何度とりかえてもとりかえてもまた、割られたり取られたりしていたカガミを、昨年1円・5円・10円玉ということもたのおこづかいを集めて作ってから、ピタッ！とイラスラが止まりました。同じイタズラをする若い人たちにも「心は心にとどく」。タコ公園でもラクガキ防止のキャンペーンを考えているそうですが、こんな心に呼びかけるキャンペーンは、いかがでしょうか。

後日談

塗りかけの赤いペンキとラクガキミックスの異様なタコは、もう一度在校生の手で、下地を塗り、すっかりラクガキを消した上にカラーペンキを塗りなおすということになりました。ご心配なく。

＜もう一つのはなし＞

ある時、学校でガマンできないことがあった子どもたちが、それを先生にぶつけることもできず、ここへやってきました。タコの頭の中にみんなであずくまっていると不思議に安らぎました。うっぴんを全部ラクガキにぶつけ、そのラクガキでいっぱいになったタコの中で、さらに安らぎを得たのでした。もしかすると、このタコはそんな子どもたちの心のオアシスになっているのかも知れません。



＜インタビュー＞

何でラクガキされるのかな？

- ここはきっとラクガキしやすい環境なんだよ人目につかなくて、人通りもあまりないし
- でも他にもラクガキしやすい場所、いくつかあるの知ってるけど、そこにはラクガキ見たことないな
- そうだな、あそこはすごくラクガキしやすいそうなのに、いつもきれいになってるな
- こちらへんでラクガキされるとこってここだけだよ
- ラクガキがしてあるから、それを見て他の人もまた、ラクガキしたくなるんじゃない？
- でも塗りたてのまっさらの時もあったんでしょ？
- きっとここは「ラクガキのメッカ」ってことになってるんだよ、そういう人達の間ではラクガキさせない方法はないのかな？
- ……分からない、無理じゃないかな？
- じゃ、消しては書かれ、消しては書かれのくり返し？
- ……

こうしてずっと子どもたちの手できれいにされてきたタコは、今回もまた心無い誰かの手で汚されてしまうのでしょうか。



赤とピンクのまだらタコ！

環境教育

「みんなの心がひとつになる時」

3月6、7日TVK『教育の窓』の中で、『みんなの心がひとつになる時』というテーマで菅生合唱団の紹介がありました。

「心を豊かに育てる」「情緒的な面を育てる」という心の教育の一環として今、菅生小では合唱に大変力を入れています。

合唱指導をしている江間先生——「自然環境を守るのも大切なことだけれども、心の環境教育も大切だと考え、2年前から合唱指導を始めました」

子どもたち——「むずかしいところは、歌うときの姿勢、声の出し方」「みんなと声をついに合わせるのが好きです」「心を合わせるのがいちばん大切だと思いました」

声を合わせるためには、人の声を聞かなければならない。

声を聞くと、人の気持ちを思いやることができる。

声を合わせることは心をついに合わせること。



菅生小 環境教育のあゆみ

菅生小では以前から野鳥や植物など、郷土の自然や歴史に目を向けていました。

- 平成4～6年度、神奈川県愛鳥モデル校の指定を受ける。
- 平成6年度、地域に対する愛着心を育てることを主眼とした自主研究を行う。
- 平成7・8年度、教育委員会からの委嘱を受け、環境教育の理論と実践の研究を行う。

主題 「郷土を愛し郷土を誇りに思う子どもの育成」

環境教育——身の回りの環境教育
心の環境教育

という経緯で今に至っています。

＜子どもたちの活動＞

- 3R活動
何度も使う、再生する、ゴミの量を少なくする
(紙ゴミゼロ運動)

- 菅生の町のクリーン作戦
月1回空き缶やゴミ拾いをして登校。
- 周囲の環境美化
1年生は机の周囲にはじまり、学年が進むにつれて広い範囲の美化に目を向ける。
- 愛鳥、栽培、飼育委員会に加え、平成8年度から環境委員会発足。環境委員会では、空き缶の管理やカワニナ*の飼育を行う。
*カワニナって？
淡水にすむ巻貝で、蛍の幼虫のエサ。
すがちゃん池にホタルをよぶため、まずカワニナを増やそうと2年前から子どもたちにできることを考え、子どもたちが飼育。
- 愛鳥集会や、グリーンアドベンチャーなどの児童会活動
- 環境資料室に子どもたちの学習の成果を展示。
- 「心を豊かに育てる」という観点で
①合唱に力を入れている。
②草花を育てて、学校や地球を花いっぱいにする運動をしている。

